

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
金沢福祉専門学校	H2年 2月28日	越中屋 薫	〒921-8164 石川県金沢市久安3丁目430番地 (電話) 076(242)1625			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 清永学園	S56年 1月6日	越中屋 薫	〒921-8164 石川県金沢市久安3丁目430番地 (電話) 076(242)1625			
目 的	将来の介護福祉士として必要な実践的かつ専門的な能力(知識や技術)と、福祉人材にふさわしい人間性(福祉の心)を体得することを目的とする。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉分野	教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	2年 (昼)	1,956 単位時間 (又は112単位)	平成10年文部科学大臣告示第八四号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	794 単位時間 (又は52単位)	666 単位時間 (又は44単位)		464 単位時間 (又は14単位)	32 単位時間 (又は2単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	45人	4人	21人	25人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 講義・実習等ともに100点法に基づき、 A (80点～100点)・B (70点～79点) C (60点～69点)・D (59点以下)の標語をもって表示し、C以上を合格とする	
長期休み	■学年始め：4月1日～4月8日 ■夏 季：8月10日～8月18日 ■冬 季：12月21日～1月5日 ■学 年 末：3月15日～3月31日			卒業・進級条件	各学年の所定の課程の修了認定を受けた者は、進級できる。 所定の修業年限以上在学し、所定の課程を修了したと認められた者には、卒業証書を授与する。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 電話・訪問等により本人・保護者と継続的に連絡を取り合い、指導等を実施			課外活動	■課外活動の種類 学外オリエンテーション・球技大会・座禅・学園祭・美術館等見学 ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 88% (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)			主な資格・検定	介護福祉士 日本赤十字社救急法救急員 アクティビティワーカー 福祉住環境コーディネーター	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 5名 ■中退率 7.9%</p> <p>平成25年4月1日在学者 90名（平成25年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者 53名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 学業不振・体調不良</p> <p>■中退防止のための取組 担任による学習支援、担任・学科責任者・教務部長による個別面談 （聴き取りと解決策提示）</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://www.k-fukushi.ac.jp</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ①企業等との連携により、学生の就業先の業界における動向や方向性、実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握し分析する。
- ②企業等の要請等を十分に生かし、実践的かつ専門分野に特化した職業教育を主体的に実践する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 27 年 3 月 25 日現在

名 前	所 属
端 久美	(福) 福寿会 特別養護老人ホーム福寿園 施設長、(一般社) 石川県介護福祉士会 会長
勝裕 健司	(福) 眉丈会 特別養護老人ホーム金澤五番丁 施設長
丸田 和夫	まるた老年リハビリ研究所 代表
越中屋 徳子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 学園長
越中屋 薫	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 理事長・校長
梅木 美重子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 教務部長
渡部 美奈子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 介護福祉学科 主任

(開催日時)

第 1 回 平成 27 年 12 月 1 日 17:00～19:00

第 2 回 平成 28 年 3 月 24 日 17:00～19:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等での実習により、将来の就業先の概要を把握し、実践的で即戦力となりうる知識や技術を修得する機会とする。

学校で修得した介護福祉の専門知識や技術を、実際に企業等で活用し、介護を必要とする利用者（障害児・者や高齢者等）の日常生活を総合的に援助できる能力を養う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習 I 《第 1 段階実習》	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに学んだ介護の理念や知識を具体的に実践する。 2. 自立支援のための介護者としての視点を理解する。 3. 通所サービス部門の見学・体験を行い、在宅福祉を支える施設の役割を学ぶ。 4. 利用者の食生活への援助について、栄養部実習を通じて学ぶ。 《訪問介護実習》 <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者とその家族と触れあう体験をする。 2. 居宅における利用者の自立を促す方法を学ぶ。 3. 家族介護の負担軽減の方法を学ぶ。 4. ケアマネジメントの実際を知る。 	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者（児）支援施設・グループホーム・デイサービスセンター・訪問事業所・訪問入浴事業所

介護実習Ⅰ 《第2段階実習》	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のアセスメントを正確に行うことができる。 2. 情報収集を系統的に行い、利用者の全体像をとらえることができる。 3. アセスメントによって利用者の生活課題を明確化する。 4. アセスメントを有効に活用した介護計画を立案できる。 	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者（児）支援施設・グループホーム・デイサービスセンター
介護実習Ⅱ 《第3段階実習》	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のアセスメントを正確に行うことができる。 2. 情報収集を系統的に行い、利用者の全体像をとらえることができる。 3. アセスメントによって利用者の生活課題を明確化する。 4. アセスメントを有効に活用した介護計画を立案できる。 5. 利用者の意向や指導者の指導・助言を介護計画に反映させることができる。 6. 計画的にケアを提供できる。 7. 行ったケアによって、利用者がどのように変化し、影響が及ぼされたか評価し今後どうあるべきかを考えることができる。 8. 学びの最終段階を迎え、将来の介護福祉士としての自覚を高める。 	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者（児）支援施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ①企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得させ資質を向上させるための、組織的に位置づけられた研修・研究の機会を確保し、計画的に受講・参加させる。
- ②企業等と連携して、教員に対し、授業及び学生に対する指導力や人間性を向上させるための、組織的に位置づけられた研修・研究の機会を確保し、計画的に受講・参加させる。
- ③研究を通して、より専門領域への学びを深め、介護福祉界への貢献とそれを背負う高度な人材を育成する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年3月25日現在

名 前	所 属
外丸 妙美	(福) 自生園 法人理事 兼 養護(盲)老人ホーム 自生園 施設長
平田 眞一	(学) 平田第一学園 理事長 (社) 岡山県専修学校各種学校振興会 会長 全国専修学校各種学校総連合会 常任理事 全国専門学校協会 副会長
山岸 美恵子	(福) 石川県社会福祉協議会保育部会保育士会 会長 (社) 松任中央福祉会 ひかり保育園 園長
逢坂 恵	(学) 清永学園金沢福祉専門学校 同窓生(平成4年度卒業 介護福祉学科2期生) 兼 非常勤講師
山崎 平治	久安三丁目第一町会 老社会 会長
越中屋 徳子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 学園長
越中屋 薫	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 理事長 兼 校長
梅木 美重子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 教務部長
渡部 美奈子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 介護福祉学科 主任
木谷 葉子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 こども福祉学科 主任
安井 裕子	(学) 清永学園 金沢福祉専門学校 学生支援室 主任

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページにて公表 URL: <http://www.k-fukushi.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページにて公表 URL: <http://www.k-fukushi.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の尊厳と自立	人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できる基礎能力を養うと同時に、演習を通して考える力、発表力を養う。	1年前期	30	2	○		
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。	1年前期	30	2	○	△	
○			社会の理解 I (生活と福祉)	現代社会において個人が自立した生活を営むことの意義とそのあり方を理解するため、家族・近隣・地域・社会の変化や現状を知り、個人の生活とのかかわりを捉える視点を養い、国民としての生活を保障するための様々な営みや社会保障制度について理解するための学習とする。	1年前期	30	2	○	△	
○			社会の理解 II (社会保障制度)	国民の生活を保障するための医療及び様々な社会保障制度についてその概要を理解するための学習とする。また障害者の自立とそれを支える障害者自立支援制度をはじめとする諸制度や諸施策について基礎的知識を習得する。	1年後期・2年前期	60	4	○	△	
○			情報処理	情報化社会の進展に対応した社会生活に必要なとされるパソコンを、正しくかつ有効に活用する上で、情報倫理・ITリテラシー等を身につけ、適した情報処理技術の習得、それを使った表現能力を育成する。	2年前期	30	2	△	○	
○			人間と法	人間と生活と法との関係、人権の歴史と今日的な意味を学ぶ。すべての人が安心して暮らせる社会はどのようにしたら可能かと、自ら考える。	1年前期	30	2	○		

○			総合学習	介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、介護福祉士としての総合的な能力を高めることを目的とする。	2 年 後 期	30	2	△	○	
○			介護の基本 I	介護の変遷を知り、介護における「尊厳の保持」「自立支援」の考え方を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点からとらえる。また、介護における安全やチームケア等について理解する。	1 年 通 年	60	4	○	△	
○			介護の基本 II (総合)	介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、また芸術鑑賞などを取り入れることにより、介護福祉士としての基本的な能力や感性を高めることを目的とする。	1 年 後 期 ・ 2 年 通 年	76	5	△	○	
○			介護の基本 III (アクティ ビティ 法)	心身の健康づくり・いきがづくりとなるアクティビティの効果や魅力を利用者に伝え、生活の活性化につなげる方法を学習する。 人間らしい生活、その人らしく生きることへの心配りを主軸として、生活や心身の活性化の援助となるアクティビティ・サービス(ケア)のあり方を学習する。	1 年 後 期 ・ 2 年 前 期	60	4	△	○	
○			介護の基本 IV (音楽)	音楽療法の知識を深め、現場で音楽を活用するための基礎知識及び音楽の有効性を学ぶ。様々なジャンルの曲にとりくみ、現場でききとりやすい声の大きさや発音、表情を身につける。歌体操、手体操のとりにくみ、そしてトーンチャイムやオルフ楽器等を実際に使って有効な使い方を学ぶ。	1 年 後 期 ・ 2 年 前 期	32	2	△	○	
○			コミュニケ ーション 技術	介護を必要とする利用者との援助的関係や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。	1 年 前 期	30	2	○	△	
○			コミュニケ ーション 技術(手話)	聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識を習得する。聴覚障害の特性に応じた福祉に関する知識を習得する。手話で自己紹介できるようになる。	2 年 前 期	16	1	△		○
○			コミュニケ ーション 技術(点字)	視覚障害者が情報入手・伝達する手段としての「文字」である点字に関する知識を得て、読む書くの技術の習得をはかるとともに、視覚障害者の現状に対する理解を深め、実際に接する際に役立て	2 年 前 期	16	1	△		○

				る。						
○			居住環境の整備	介護を必要とする高齢者や障害者が物理的にも精神的にも豊かで人間らしい生活を送れる「すまい」への理解。居住環境に関する知識を修得し環境を整備し生活を支援していく重要性を理解する。	2年後期	16	1	○		
○			家事援助(講義)	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守るための適切な家事援助の技術・知識を習得する。	1年前期	16	1	○	△	
○			家事援助(衣・講義と演習)	家事援助技術の1つとして、衣服の役割と機能に関する知識、基本的な縫製技術の習得を目的とする。	1年後期	16	1	△	○	
○			家事援助(食・講義と演習)	家事援助技術の一つとして、食の意義・役割と機能に関する知識、基本的な調理技術を習得し、介護予防推進の面からも、個々人に対応できる栄養・調理管理の生活支援能力を習得する。	1年後期	30	2	△	○	
○			生活支援技術(演習)	対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。	1・2年通年	120	8		○	
○			形態別生活支援技術(講義)	障害者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた障害に合わせた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。	1年後期	30	2	○		
○			形態別生活支援技術(演習)	障害者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた障害に合わせた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる実践的な技術や知識を習得する。	1年通年・2年前期	46	3		○	
○			緊急時の対応	病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引継ぐまでの救命手当及び応急手当の知識と技術を習得する。	1年後期	30	2	△	○	
○			介護過程 I	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる基礎的能力を養う。	1年前期	30	2	○	△	

○			介護過程Ⅱ (演習)	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる実践的能力を養う。	1 年 通 年	60	4	△	○	
○			介護過程Ⅲ (課題 研究)	介護過程に沿って体験した介護方法を研究論文にまとめる過程を学ぶとともに、研究発表の手法を学ぶ。また、学内外の大勢の聴衆の前で発表したり発表を聴く機会を持つことで介護福祉士としての視点や応用能力を養う。	1 年 後 期 ・ 2 年 通 年	60	4	○	△	
○			介護総合 演習Ⅰ	介護実習に向けて、心構えを確認し、予備知識を蓄え、実習に対する動機づけを深め、介護実習に臨む準備を行う。実習後は十分な振り返りを行うことで、介護実習で学んだ内容の深化をはかる。	1 年 通 年	60	4		○	
○			介護総合 演習Ⅱ	介護実習Ⅱに向けて、心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習における実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことで、より効果的な介護実習を行えるようにする。	2 年 通 年	60	4		○	
○			第1段階 実習(訪問 介護実習含 む)	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	1 年 前 期	96	3			○
○			第2段階 実習	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成を習得する学習とする。	1 年 後 期 ・ 2 年 前 期	144	4			○
○			第3段階 実習	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	2 年 後 期	224	7			○

○		発達と老化の理解Ⅰ (人間の成長と発達)	生物学的側面・心理的側面から人間の成長・発達について学習し、“成長と発達”に関する基礎的知識を身に付ける	1年前期	16	1	○		
○		発達と老化の理解Ⅱ (老化に伴うこととからだの変化)	『老化』を理解するために、老年期の心理的特徴や身体機能に関する基礎的知識を身につける。	1年前期	16	1	○		
○		発達と老化の理解Ⅲ (高齢者と健康)	人は生まれてから死に向かって成長する。人生の最期である老年期を生きる高齢者の健康を維持するために、高齢者に生じやすい病気や症状についての知識を身につける。	1年後期・2年前期	46	3	○		
○		認知症の理解Ⅰ (認知症の基礎的理解)	認知症の人の生活理解と、基礎的なケアの方法を習得する	1年前期	16	1	○		
○		認知症の理解Ⅱ (医学的知識)	認知症を医学的側面からとらえ、認知症治療や認知症ケアについての知識を身につける。	1年前期	30	2	○		
○		認知症の理解Ⅲ (地域における支援)	地域において認知症のある人とその家族を支援する方法についての基礎的知識を学習し、介護の視点を習得する	2年後期	16	1	○		
○		障害の理解Ⅰ (障害の基礎的理解)	障害の概念、障害者の生活像、障害の基本理念、障害者福祉施策、障害者の法とサービスについて基礎的知識を身につける。	1年前期	16	1	○		
○		障害の理解Ⅱ (医学的知識)	障害のある人の心理や身体機能に関する医学的知識を身につけるとともに、障害のある人の体験を理解する。	1年前期	30	2	○		
○		障害の理解Ⅲ (地域における支援)	地域において障害者本人や障害者の家族を支援する方法についての基礎的知識を学習し、環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2年後期	16	1	○		
○		こころのしくみ	心理学的視点から基礎的なこころのしくみについて解説し、自分を客観的に見つめる機会とする。	2年前期	30	2	○		
○		からだのしくみ (生命論)	身体の生理・身体の機能・身体構造・身体の動きについて理解し介護サービスの提供における安全への留意点や身体的・心理的側面への配慮について学習する。	1年前期	30	2	○		

○			からだのしくみ (生活論)	生活支援技術で求められる知識や援助の意義を深め、それらのサービスの提供における安全への配慮や身体的・心理的側面への配慮について理解する。生活支援技術で求められる知識や援助の意義を深め、それらのサービスの提供における安全への配慮や身体的・心理的側面への配慮について理解する。	1年 通年・2年 前期	60	4	○		
○			医療的ケア	医療的ケアⅠ（基礎的ケア）	1年 後期	16	1	○		
○			医療的ケア	医療的ケアⅡ（分野別知識と実施手順）	2年 通年	34	2	○		
○			医療的ケア	医療的ケアⅢ（演習）	2年 後期	16	1		○	
○			課外授業	「誠実」「勤勉」「創造」を育むために自己探求会（座禅）、学園祭、海外研修等の行事に取り組み、福祉現場での有益な人材を育成する。	1・2年 通年	適宜	適宜	△	○	
○			特別 ゼミナール	相手の気持ちを大切に考える、きちんと挨拶が出来る、コミュニケーション能力がある、我慢強い、問題解決に取り組む姿勢や実行力など、人と人とのつながりが基本となる福祉人にとって必要なスキルを学ぶ。	1・2年 通年	適宜	適宜	○	△	
合計				45科目	1956単位時間（112単位）					